

小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の進捗状況及び来年度の方針について

1. 平成21年度の事業報告(1) ワーキンググループ (WG) 開催経緯等

21年 4月20日	第1回WG開催 (小規模事業場向け有機性排水処理技術実証試験要領(第2版)の検討及び実証機関の公募・募集に関する検討等)
11月20日	拡大WG開催 (事業や対象技術への要望・意見、実証によるメリット等の向上についての要望・意見)
22年 3月12日	第2回WG開催 (実証試験結果報告書の検討、実証試験要領の見直し方向性について)

(WG検討員名簿は別紙参照)

(2) 実証試験状況等

実証運営機関：財団法人日本環境衛生センター

実証機関：大阪府（環境農林水産総合研究所）

(実証対象技術)

- ①オーダーメイド微生物を活用した環境浄化
(選定したものの環境技術開発者の事情により実証を取り下げ)

実証機関：社団法人埼玉県環境検査研究協会

(実証対象技術)

- ①厨房排水処理装置”ECOTRIM”
- ②業務用厨房シンク型 油水分離回収機”グリス・ECO DS-2”

2. 来年度の方針

〔課題〕

- ・実証試験要領に規定されている実証試験期間、検査方法・試験方法の実証対象技術に応じた適正化
- ・既存のデータ利用による環境技術開発者の負担軽減と実証件数の確保

〔改善策〕

- ・ 試験期間、定期試験等の短縮・省略、検査方法・試験方法の変更については、実証対象技術により実証試験の最適な方法が異なるため、実証試験要領に細かく規定するのではなく、技術実証委員会においてそれぞれの技術にあった判断をすることとする。
- ・ 既存データを利用した実証については、ユーザーと環境技術開発者が連携をとって得られた試験結果などは双方の実証メリット向上にも資することから、本分野としては既存データの活用について前向きに検討していく予定。

<今後の予定>

- 実証運営機関の選定（4月上旬）
- 第1回WG開催・実証試験要領の策定・実証機関の公募（4月下旬）

平成21年度環境技術実証事業検討会
小規模事業場向け有機性排水処理技術分野
ワーキンググループ 検討員名簿

藤田 正憲 高知工業高等専門学校 校長

岡田 光正 広島大学大学院工学研究科 教授

徐 開欽 国立環境研究所 循環型社会廃棄物研究センター
バイオエコ技術研究室 室長

中井 尚 (社)日本フードサービス協会 理事、事務局長

名取 眞 (社)日本産業機械工業会 国際環境技術協力センター 顧問

宮腰 智裕 (株)エム・エル・エス 常務取締役、事業部長